

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活の場としての運営方針を目的にしグループホーム桜野が目指す居心地の良い支援の方向性を理念として掲げている	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年2～3回の職員との個人面接の実施にて理念の理解を確認し、日常生活の場でも介護支援の実践展開について話し合っている	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	目標の中に利用者・家族・地域にオープンに「自由」「信頼」「連携」を掲げ当ホームの自由訪問を受け入れ市町村広報誌などで開放日をお知らせしたりしている。また機会ある毎に管理者が認知症についての公演をしている	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	家庭菜園があり収穫時に配ったり、花の球根を配ったりして機会がある毎に管理者が隣近所に顔を出している。また、当ホームの防火訓練や餅つき等にも声を掛けて参加をお願いしている。普段、通りかかる方々とも管理者はじめ職員の気軽に声を掛けている	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域では当ホームの存在意義は理解して頂いているが自治会はじめとした地域活動には積極的に参加はしていない。但し、地域貢献になる寄付行為には対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>利用者の権利擁護は尊重されるものであり、全職員が理解されるものであって欲しいが制度内容については個々のバラツキがあると思われるので個人面接時に確認してみる</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>管理者以外の職員も外部研修等に参加し学習して行きたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約以前に重要事項説明書や運営規定書で利用内容を説明し、利用者・家族等の理解と納得が得られない限りは契約を結ばないようにしている。また、利用者・家族等の不安・疑問点等を確認した上で介護支援の方向性に結び付けてゆく</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が持つ意見・不満・苦情は管理者・職員に自由に発言できる支援している。其れに応えるように努めている。契約段階でも再度、公的な苦情受付窓口をお知らせしている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>居室担当者を設け利用者の状況把握し随時、家族へ報告して連携に努めている。また、家族の要望が利用者にとって必要なものか職員と一緒に検討した上で対応している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者同様に家族の思いは管理者・職員等や公的苦情受付窓口対して自由に表出して頂く様に書面でも説明をしており、玄関内に表示している</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者が職員の意見・提案を受け入れる様に努めている。理念の展開の沿った内容については運営者にも検討を求めているが、管理者権限で判断し速やかな対応が出来る方向にある。但し、職員個別の意見に偏りがある場合はユニットリーダーの意見も参考にしている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>事前に計画された事柄や利用者・家族の状況に対しては勤務調整を行なうが、臨時的な調整は職員間で自主的に話し合っ結果を管理者に相談・了解を得て対応に努めている。但し、優先順位での関わりになりうる</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に当ホームの職員は専属として採用している。法人母体間からの職員異動は長期間を考慮しており利用者の人間関係を損なわない方向に努めている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者が職員の個別性に合った研修を選択している。また、定期的な同一研修開催については職員を交替で参加している。但し、学んだ内容を伝達する機会が得られない事があり、復命書・研修報告書を提出し全職員に回覧している</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の機会は妨げるものではない。管理者が他の市町村の同業者とお互いの運営方法や知り得た情報を交換し合ったり、介護支援専門員が介護計画の引き出し方などの勉強会に行ったりもする。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>物理的環境として職員の休憩室が設けられていないので常に利用者と一緒に生活を共にしている状況にある。ストレスは心理的な問題でもあり、管理者が職員の精神状態をみながらコミュニケーションを図りストレスの軽減に努めている。また、休暇は制度的に確保しており、職員間で勤務調整に心掛けて協力し合って休暇を利用している</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人母体で年2回の人事考課を管理者の面接で実施しており自己評価項目に向上心を含めた努力目標が設定され職員の個別状況が反映されている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が入居希望の時点でホームの見学を数回して頂き、利用申請前後に本人との面接で相談を受けて介護支援の方向性としての情報に対応している。その間、本人と職員が触れ合える場面を設けている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が利用するホームとして客観的な立場で見学をして頂き本人が利用する場所に相応しいか判断してもらう。その為に家族から相談や質問を受けて納得してから利用申請を受け付けているが、入居に至るまでの面接は最低4回程を要している	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームで出来る介護サービスは事前に文書等で説明しているが、利用者が個別に必要な他のサービス利用については事業所等を紹介したり、連携体制の協力に努めている	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一時的に生活環境が変わるので利用者らしい生活に慣れていただく為の介護支援ができるように暫定的に3ヶ月間の初期計画をたてる。経過を見ながら更に利用者に適した介護計画を家族を交えて立案する。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	何年も生活をともにしている事で信頼関係が出来ていけば喜怒哀楽も自然な姿であり、新たな職員と利用者との結び付きが出来た関係になってきていると思われる	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した時など本人と関わった事柄や様子を話したり、家族だから知りえる情報を教えてもらったりしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係を把握し本人その家族に合わせた上で良い関係が築いていけるように互いの話を聞く		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めていない	○	本人の「今」の認識・感情を大切に支援している為、その様な場面があった時には支援に努めたいと思うが職員から積極的に「これまでの人・場所」等を引き出す事はしていない。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立してしまう時は様子を伺い声を掛けて関わりあえる様に支援していく		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	断ち切っていないので、いつでも必要な時は付き合いで出来るようになっている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人の「今」の思いを大切にしているが希望や意向の変化の把握には少し不十分と思われる	○	介護度・認知度の変化にあった意向の把握に努め、本人自身の意見(希望)を表現出来ない人にも支援を向ける
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時までの情報として把握に努め、入居後も不足な生活情報も家族から得る事している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化があった時などは生活記録・申し送りノート・健康チェック表等を利用して情報把握に努めている		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知が進むと本人のニーズを把握する事が難しく家族・職員が見た問題点を井としてあげてしまい利用者本位の計画になっていない	○	利用者本位の計画になるように努めていく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した新たな計画は作成しているが事前に本人・家族との話し合いはされていない	○	計画作成をする時には本人・家族を含めた話し合いが持てるように努める

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に立案されていない事を個別記録に記入し情報を共有している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	転落の危険がある場合は床に布団を敷き、浴室ではその状況に合わせて椅子等を使用し、出来る支援に応じている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	少しずつではあるが協力体制が出来ている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者・ユニットリーダーを中心に他のサービス事業者との話し合いをしている、また通院サービス利用の支援もしている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が中心に行なっている		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を受け入れている</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>支援はしていない</p>	<p>○</p> <p>気軽に相談できる医師の確保に取り組んでいきたい</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ホームに2名の看護職員がいるので相談しながら健康管理に努めている</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>管理者が中心に主治医・病院と連携をとり情報交換している</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>具体的な方針があるわけではないが、その時の状況に応じ個別的に本人・家族の希望を聞き入れ方向性を共有していく</p>	<p>○</p> <p>ホームとして医療行為が恒常的に必要にならない限りは生活の継続が出来る支援を本人・家族と協議して関わって行く</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>法人母体に病院部門があり、重症化・終末期には入院となる事が考えられる。そのような時ホームとしての関わり方を考えて行きたい</p>	<p>○</p> <p>重度化・終末期に向かっている場合は、出来る介護支援の範囲を確認して対応していく</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	2事例あったが管理者が中心に本人・家族・転居先との話し合いや情報交換を行なっている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入居する時はノックをして声を掛けてから入居する。失禁の場合等は居室の扉を閉めて静かに衣服を交換する。記録などの個人情報は細心の注意を払っている		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の衣服は更衣できる利用者は自ら本人の好みを選択し、お茶の時間には希望する物を聞き利用者の好みの物を準備するなどして基本的には聞き取りながら支援する		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の流れの範囲で一人ひとりのペースを個性として受け入れている。個別により配膳・盛り付け・洗い物・掃除・洗濯物のたたみ方等にも対応する		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は清潔を心掛け、利用者の個性に合う服装・身だしなみができるようにしている。理美容は基本的には家族の対応になっているのが利用者との話し合いで職員が理容する場合がある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>実際にお金を使いたい状況は無いが食事時に「お金はいくら？」と聞かれる事があるので前金で戴いている旨を伝える程度の関わりがあるぐらい。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>暖かい日は戸外に出掛けますが足が悪い入居者が居るので寒い時は控えている</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別的の外出は家族対応となり本人の要望を伝える。レクリエーションの一環で毎月1～2回程度の外出を実施している。時には家族の同伴もある。外出によっては時には精神的不穏や混乱を招く利用者も居なくも無い。環境を変えられない状況もありうる。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>基本的に使用できるように支援している</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>利用者の家族はじめ親戚・友人の訪問は規制していない。職員も快く迎え受け入れている</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>当該禁止行為を何処まで正しく理解しているかは別として利用者の自由を尊重する観点から身体拘束は考えていない</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は玄関は施錠をせず自由に入出入りが出来たが認知が亢進して他の出入りの人につられて外出して安全を確保できない状況が発生した事から、自由に入出入りの出来る利用者の場合はその都度の開錠になる		最近では安全上、一般家庭も日中から施錠している事が多く、その認識から施錠を考え、自由に入出入りを拘束するものではないと判断している
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常の生活行動でプライバシーに配慮し所在・様子を把握し、トイレ等の移動も安全に出来るように声掛け・見守りを重視している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものに関しては手の届かない場所に置いたり、夜だけ別な場所に移動したりして保管管理には注意している		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に入居者が何処に居るのかを把握し、その都度の状況に応じて様子を窺ったりしている。また、個別に危険と思われる入居者については職員間で情報を共有して事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急返時・事故発生時・緊急連絡に関してのマニュアルはあるが全ての職員が応急手当・初期対応を理解しているとは思えない。また、その訓練の実施はされていない。	○	利用者の急変や自己発生時のたいおうの訓練をどの様に展開するか職員会議で協議する
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合火災訓練(昼・夜)を実施し避難できる方法は理解していると思われるが広義的な意味での災害対策は十分にされていない。	○	災害規模にもよるが実際には広域的な災害対策に頼らざる負えないと思う。何処まで地域住民の協力が得られるか疑問であるが常に近所付き合いは大切にして馴染みの関係を構築している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個別に起こり得るリスクについては家族等に説明し理解を得ている。その為に抑圧感のない暮らしを送る場合の状況展開も家族と一緒に話し合っていていく		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、健康チェックとしてバイタルサイズをとり異変の有無を確認している。異変があった場合は速やかに看護師に情報を伝え、家族への対応に努めている		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己管理できる入居者を含め、処方内容に応じて個別に経口されるまで見届ける。また、預り処方薬の在庫管理を職員で共有して行なっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努め、食事の工夫をしている。また個別に腹圧刺激の足の運動や腹部マッサージを行なう。状態に合わせて下剤の使用もある。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	殆どの入居者は義歯であり義歯の洗浄を実施。口腔保清はうがいを促す。個別の状態によりその都度の対応をする	○	口腔内洗浄はとても大切な事と思っている。実施時に拒否・抵抗がある入居者も居るが毎日の全員の洗浄を工夫したい
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に応じて毎日のお茶の時間に限らず水分補給に努めている。食事献立については3ヶ月毎に管理栄養士の評価を受けて対応している。また、個別に食事摂取を工夫して支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いを基本としている。毎日3回の手摺り・扉の取っ手等のアルコール消毒薬での清拭を実施。インフルエンザ予防接種は毎年、同意の上にて施行している。吐物等の汚染物に関しては直接触れる事せず処理している。咳をしている時は状況によって居室での食事支援をしている		
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いを基本として週1回の全ての食器・まな板・調理器具等を次亜鉛素酸ナトリウム希釈液で消毒、刃物は熱湯消毒。調理は火を通した献立に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周囲は整理整頓され清潔感に努めており、ベンチを配置して近所の方が立ち寄れるように工夫もしている		
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの入居者が居間に集まっていて音楽・テレビ・会話に興じ寛いでいる。個々の入居者の主体に沿って対応している。また、窓・カーテンなどの開閉も自由にして頂いている		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での個々人の居場所の環境確保は物理的に出来ない。利用者同士の寛ぎの場として居間が中心となるが、廊下に縁台を配置したりして工夫をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>野菜を切ったり剥いたり、花を摘んだり飾ったり、野菜の収穫をしたりする。季節の変化を五感で感じ取ってもらったり、感情を表現してもらう事をレクリエーション等の工夫で行なっている</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者本人の「意思」「今」を大切にして穏やかで安らぎのある暮らしが出来る様に、個人を尊重し自由な生活に支援をしている。その為に利用者の話を聞き、訴えている事が「何か」  
をキャッチ出来る姿勢で関わり、常に利用者側に立って支援する事を心掛けている。